

指定管理者評価シート

事業名	地域コミュニティ施設運営管理費	所管課(電話番号)	東区市民部地域振興課
-----	-----------------	-----------	------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市苗穂・本町地区センター	所在地	札幌市東区本町2条7丁目2-10
開設時期	平成11年2月15日	延床面積	1,309,313㎡
目的	地域住民のコミュニティ活動の助長及び生涯学習の普及振興を図り、もって地域住民の福祉の増進に寄与する。		
事業概要	(1) 各種講習会、講演会等の開催、体育、各種野外活動等のレクリエーション活動の推進、 その他必要な事業を行うこと。 (2) 一般の使用に供すること。		
主要施設	ホール、集会室、実習室、和室		
2 指定管理者			
名称	札幌市苗穂・本町地区センター運営委員会		
指定期間	令和5年(2023年)4月1日～令和10年(2028年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：当センターが、地域社会に関係の深い団体によって継続的に管理運営されることにより、地域住民がまちづくり活動に直接参加する機会が作られ、地域住民自らがセンターの管理運営を通して把握された地域課題の解決に取り組むことによって、地域住民間の信頼関係が築かれ、地域社会における絆の強化につながる事となる。また、まちづくり活動の担い手の育成に寄与することも期待される。このようなことから、設置目的の実現のために、地縁による団体により設立された団体及び当該設立された団体を主な構成員とする団体並びに当センター等の管理運営に関わりを持つものと市長が認める地縁による団体の推薦を受けた団体により、現に良好な管理運営が行われている場合には、継続的に管理運営を行わせるために非公募としたもの。		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	(1) 統括管理業務 (2) 施設・設備等の維持及び管理に関する業務 (3) 施設における事業の計画及び実施に関する業務 (4) 施設の利用等に関する業務 (5) (1)～(4)に掲げる業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 令和7年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価																																
1 業務の要求水準達成度																																			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 札幌市から令和5年度を初年度とする5年間、札幌市苗穂・本町地区センターの運営にあたり指定管理者として設置目的である地域住民(札幌市民)のコミュニティ活動の助長・生涯学習の普及並びに地域住民の福祉増進に寄与することを基本理念とし、次の基本方針を策定した。 ▼地域に暮らす乳幼児から高齢者まで誰もが参加し利用できる地区センターとして①子育て支援事業の実施②地域福祉事業の推進③関係諸団体の活動拠点として施設の有効活用を図る。 ▼講座・文化祭・コンサートなど、世代を超えて生涯学習としての教養・文化・芸術にふれる機会の提供と、学ぶことの楽しさと感動できる事業を提供できる地区センターとして関係事業を実施する。 ▼地域は老若男女問わず多くの個人と企業と団体等によって構成されている。苗穂・本町地区センター運営委員が、利用者をはじめ地域で働き暮らす方々の声を受け止め、地域のまちおこし事業の拠点として運営していく。 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼公の施設として「特定の利用者・団体に偏ることなく、利用者の誰もが公平・平等に利用できること」を確保するため、①関係法令を遵守すること②広報活動の充実を図ることを掲げ適正な運用に努めた。 ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼不要な照明の消灯による節電や手洗い時等の節水を励行し、電気・ガス・上下水道の使用は可能な限り節約図った。 ▼冷暖房機器について、職員による定期的なエアコンフィルターの清掃により機能維持を確保するとともに、利用者に対して、適正な室温での利用に努めるよう依頼した。 ▼事務用品や洗剤等は可能な限りグリーン購入ガイドライン指定品を使用した。 ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼常勤職員に統括責任者「館長」、職務代理者「副館長」2名(事務1名、図書1名:司書資格有)、一般事務職員、図書職員を配置した。この他、補助としてパート職員(事務1名、図書1名、夜間5名)を配置し円滑な業務遂行に努めた。 ▼職員の業務分担(事務分掌)、指揮命令系統、連絡系統を定め、緊急時対応が迅速に行えるよう連絡網を整備している。 ▼業務水準の維持向上と適切なサービスの提供を図るため、当初の研修計画に基づき職員研修を実施している。 ▼パート職員には、館長他担当職員から案内業務、使用承認、利用料金収納事務等のほか、関係法令について事務引継ぎ時間を利用して実施し、不適切な事務処理がないよう努めた。 ▼パート職員の労働時間平準化を図るため、特定のパート職員に業務が偏ることがないよう勤務シフト作成に配慮してきた。 ◇一般研修 <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th><th>主 催</th><th>実施日</th><th>参加</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苗本勉強会 新料金に向けて</td><td>苗穂・本町地区センター 運営委員会</td><td>6/25</td><td>7名</td></tr> <tr> <td>明日から使える生 成AIのビジネス活用 セミナー</td><td>(一財)さっぽろ産業振興 財団</td><td>7/4</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>基礎から学ぶ動画 編集</td><td>生涯学習センター</td><td>9/21</td><td>1名</td></tr> <tr> <td>救命救急講習 (BLS)</td><td>札幌徳洲会病院救急セ ンター</td><td>9/26</td><td>12名</td></tr> <tr> <td>伏古本町地区認知 症高齢者徘徊捜索 模擬訓練</td><td>伏古本町地区福祉のま ち推進センター</td><td>10/13</td><td>1名</td></tr> </tbody> </table>	研修名	主 催	実施日	参加	苗本勉強会 新料金に向けて	苗穂・本町地区センター 運営委員会	6/25	7名	明日から使える生 成AIのビジネス活用 セミナー	(一財)さっぽろ産業振興 財団	7/4	1名	基礎から学ぶ動画 編集	生涯学習センター	9/21	1名	救命救急講習 (BLS)	札幌徳洲会病院救急セ ンター	9/26	12名	伏古本町地区認知 症高齢者徘徊捜索 模擬訓練	伏古本町地区福祉のま ち推進センター	10/13	1名	・各事業の策定・実施については、運営委員会と事務局が連携を密にし、基本方針に基づき決定した。 ・予定事業の全てを実施することができた。参加者からの評判も良く、地域住民の福祉増進に貢献できたものと考えている。 ・全職員が関係法令を遵守し、適正な平等利用に取り組んだ。 ・職員はもとより利用者の協力も得て省エネに努めるとともに、ごみ排出量の軽減など環境配慮の取り組みを実施できた。 ・業務日誌等で常勤職員とパート職員間の連絡事項等情報の共有に努めた結果、事故・事件の発生はなかった。 ・AEDと実技用入形を用いて、最新の救急法を全職員が学び、事故等における救命方法等を共有することができ有意義なものだった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 基本方針や平等利用の理念が浸透し、安定的かつ適正な施設運営が確立されている。救命救急や生成AI活用等の実効性の高い職員研修に加え、夜間パート向けに夕刻に自衛消防訓練を執り行うなど、職員の資質向上が図られている。また、機械警備の途中解約といった突発的トラブルに対しても、迅速に対処し支障なく運営を継続した。外部監査を含む厳格な財務・組織管理も適切であり、要求水準を十分に満たしている。	A	B	C	D				
研修名	主 催	実施日	参加																																
苗本勉強会 新料金に向けて	苗穂・本町地区センター 運営委員会	6/25	7名																																
明日から使える生 成AIのビジネス活用 セミナー	(一財)さっぽろ産業振興 財団	7/4	1名																																
基礎から学ぶ動画 編集	生涯学習センター	9/21	1名																																
救命救急講習 (BLS)	札幌徳洲会病院救急セ ンター	9/26	12名																																
伏古本町地区認知 症高齢者徘徊捜索 模擬訓練	伏古本町地区福祉のま ち推進センター	10/13	1名																																
A	B	C	D																																

◇防災訓練

自衛消防訓練(前期)	苗穂・本町地区センター	10/15	14名
自衛消防訓練(後期)	苗穂・本町地区センター	2/17	20名

・自衛消防訓練は夜間パート職員向けに時刻にも実施して火災時の対応に備えた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼広報関係の充実のついて

「地区センターだより」の構成やフォントを見直し、より親しみやすい「地区センターだより」となるよう紙面の充実を図るとともに、SNSを積極的に活用した。また、ホームページ更新に向け検討をし令和8年1月から試験的に稼働した。

・「地区センターだより」の紙面見直しやSNSの活用が集客増に一定程度の効果があった。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼苗穂・本町地区センター施設の保守・管理の適正化により、利用者に快適・安全な施設利用を提供するため、札幌市の承認を得て以下の業務について第三者に対し業務の委託を行った。

・各業務とも点検後の報告では、特に問題はなく修繕の必要はなかった。

No.	委託業務名	委託業務内容
1	清掃業務	地区センターの清掃業務
2	機械警備業務	夜間・休館日の警備業務
3	エレベーター保守点検業務	エレベーターの保守点検業務
4	自動ドア保全業務	自動ドアの保守点検業務
5	ボイラー保全業務	ボイラーの保守点検業務
6	消防設備保全業務	消火器・自動火災報知設備等消防用設備の保守点検業務
7	自家用電気工作物保安管理業務	受電設備・電気工作物等の保安管理業務
8	舞台装置保全業務	各種幕・照明・ステージ等舞台装置の保守点検業務
9	建築基準法定期点検業務	建築物及び建築設備の点検業務
10	空調機器(エアコン)点検業務	空調機器(エアコン)の点検業務
11	除排雪業務	駐車場・非常口の除排雪業務
12	芝生管理業務	芝生の草刈及び樹木の剪定・消毒等管理業務

▼第三者委託業務のうち機械警備業務について、履行期間途中で契約の相手方から解除の申出があり契約書に基づき賠償金を請求した。なお、この業務は他業者と契約し支障はなかった。また、他の委託業務については、業務の遅延・未執行及び改善命令等による業務の手直しはなく、委託契約仕様書に基づき適正に履行された。

▼請求書受理後、契約条項に基づき所要経費を定められた期間内に支出事務を終了している。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

▼運営協議会等の開催状況は下表のとおり

開催日	協議・報告内容
運営協議会 7年6月24日 苗穂・本町地区センター	1 令和6年度各種事業実施状況について 2 令和7年度各種事業計画について 3 運営協議会委員からの意見・提言について
第1回 4館連絡会議 7年6月13日 東区民センター	1 地域振興課からの連絡事項 (1) 備品購入・廃棄要望調査について (2) 賃金スライド支給額について 2 各センターからの情報提供等 (1) 小中学校の体験学習・見学の受入状況 (2) 施設利用後の備品確認について (3) 防犯カメラの設置状況について (4) 各センターの文化祭の日程について

・運営協議会では、各委員から事業への協力や提案があり、次年度の事業計画に反映した。

第2回 4館連絡会議 7年9月5日 ふしこ地区セン ター	1 地域振興課からの連絡事項 (1) 賃金スライド制度による協定改定について (2) 備品購入・廃棄要望調査について (3) 広報さっぽろへの講座掲載について 2 各センターからの情報提供等 (1) 週刊新刊全点案内について (2) 貸室利用料改定の影響について (3) 貸室の空き状況の周知方法について	
第3回 4館連絡会議 7年12月5日 栄地区セン ター	1 地域振興課からの連絡事項 (1) 財務検査・業務検査(令和7年度)について (2) 委託費の補填について (3) 広報さっぽろへの講座掲載について 2 各センターからの情報提供等 (1) 賃金スライド制度について (2) 貸室の利用促進について	
第4回 4館連絡会議 8年3月10日 苗穂・本町地 区センター	1 地域振興課からの連絡事項 (1) 広報さっぽろ東区版のへのイベント掲載方 針について (2) 札幌健康アプリ「アルカサル」について (3) 年度末・年度初めの提出書類について 2 各センターからの情報提供等 (1) 貸室の利用料金について	
<協議会メンバー> ・札幌市東区地域振興課長 ・札幌市東区地域振興課活動担当係長、同係担当者 ・小中学校校長、保育園園長 ・東区地域包括支援センターセンター長 ・地域町内会会長、サークル代表 ・指定管理者(運営委員会会長、副会長) ・地区センター館長、副館長		
▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) ▼資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、運営委員会の内部監査と併せて税理士による外部会計監査を実施している。 ▼現金等の取扱いについては、現金取扱規定を整備しており、日々の現金取り扱いを適正に実施している。 ▽ 要望・苦情対応 ▼要望・苦情対応については、簡易な案件を除き直接館長が行うよう一本化している。 ▼要望・苦情の内容、対応、措置、結果等はパート職員を含め全職員に周知して情報共有を図っている。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼アンケートは、原則、各事業(講座を含む)終了後に実施し、その結果を全職員に回覧して情報の共有を図っている。		・運営委員会の内部監査及び税理士による外部監査において資金管理は「適正」の評価を得ている。 ・令和7年度の苦情はなかった。 ・アンケート結果等はセンター内に掲示し閲覧に供している。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ▼当地区センターで働くパート職員全員に労働基準法で定める1時間単価の最低賃金を上回る時給を支給している。 ▼最低賃金引き上げに伴う改正には、速やかに時給を改正して支給している。 ▼時間外労働については、所定の割増賃金を支払っている。 ▼雇用職員(常勤職員・パート職員)の雇用条件については、就業規則を定め、労働基準監督署の承認を受けている。 ▼常勤職員にあっては、関係法令に基づき所定の社会保険、労働保険に加入している。 ▼常勤職員は1年に1回定期健康診断を実施している。 ▼指定管理者の申込時に提出した、ワーク・ライフ・バランスの取り組みを適切に実施した。 ▼第三者委託により実施している業務について、受託者に当該業務従事者の労働環境に関わる情報提供を求めた。	・労働関係法令の遵守や雇用環境の維持向上に努めており、職員からは特段の苦情もない。	<table border="1"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 労働関係法令の遵守	A	B	C	D				
A	B	C	D								
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ◇利用者の安全対策について ▼館内の巡回定期のほか、必要が認められる場合は速やかに実施している。 ▼貸室時や事業(イベント・講座等)開催時には利用者に対し非常口等の案内を行っている。 ▼AEDの作動確認を定期的に行い、緊急時の使用に万全を期している。(AEDは事務室入口側ロビーに設置し、誰にでもすぐ使える状態にしている。) ▼損害保険は仕様に適合したものに加入した。 ◇市民サービス向上への配慮 ▼無料開放事業を固定し、毎月必ず実施するようにした。 ▼受験生や資格取得者など向けにセンター2階に自習コーナーとして開放している。 ▼コピーの有料サービスの提供を行っている。 ▼カラオケ機をリースし、貸室利用者が安価に利用できるようにしている。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼施設・設備等については、適正かつ安全な環境を利用者に提供するため、関係業務を第三者委託により実施した。 ▼備品は備品台帳と照合するとともに、不具合のあるものについては、適宜、修繕・廃棄・更新を行い適正に管理している。 ▼駐車場は限られたスペースしかないことから、状況に応じて職員が誘導を行った。また、今年度駐車場に隣接する建物の壁面に反射板を設置し、夜間や冬季間の安全確保を図った。 ▽ 防災 ▼職員及び利用者が参加した防災訓練を10月15日と2月17日の2回実施した。 ▼消防設備点検時に放送設備の操作方法を確認した。	・施設の維持管理を適正に実施することで、利用者の安全を確保し良好な環境を提供できたものとする。 ・施設利用者の事故はなく、損害保険を請求する事案はなかった。 ・自習コーナーは受験生等利用者から好評を得ている。 ・老人クラブなど定期的に利用する団体が複数あり好評を得ている。 ・第三者委託業務は各々の仕様書水準を良好に達成している。 ・駐車場は反射板設置の効果もあり事故なく安全が確保された。 ・利用者の参加も依頼し防災意識の高揚を図った。	<table border="1"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 月例の安全自主点検や確実な館内巡回、AEDの定期確認等により利用者の安全確保が徹底されている。駐車場への反射板設置や委託業務の適正な履行により安心・安全な施設管理が図られており、要求水準を適切に満たしている。	A	B	C	D				
A	B	C	D								

(4)事業の計画・実施業務

▽ 区民講座に関する学習機会の提供業務

▼令和7年度区民講座は29講座開講した。

講座名	実施回数	延べ時間	募集人数	受講者数	受講率	備考
かけっこ教室 1・2年生	1	2.0	20	20	100%	恒例
かけっこ教室 3年生以上	1	2.0	20	18	90%	恒例
スマホ基礎講座	3	6.0	8	4	50%	延人数
レカンフラワー作り	1	2.0	16	18	113%	初
心落ち着く 苔テラリウム	1	2.0	15	8	53%	百合が原緑のセンター協力
モルック 無料体験会	1	2.0	24	24	100%	初
夏を乗り切る ねぎキムチ(午前)	1	2.0	12	12	100%	恒例
夏を乗り切る ねぎキムチ(午後)	1	2.0	12	10	83%	恒例
ピックルボール 体験会	1	2.0	16	16	100%	初
夏休み子供企画 親子でピックルボール	1	2.0	16	16	100%	初
夏休み子供企画 ディンブルアート キーホルダー	1	2.0	20	12	60%	SDGs企画
女性限定健康 マージャン講座	6	12.0	20	10	50%	初 延人数
夏休み子供企画 バドミントン やってみない?	1	2.0	8	5	63%	初
MYハーバリウム を作ろう	1	2.0	15	5	33%	百合が原緑のセンター協力
段ボール箱で自家 製堆肥を作る方法	1	1.5	30	10	33%	市の委託業者 による開催
はじめての 投資講座	1	1.5	20	4	20%	佐藤FP 教養講座①
現代の教育資金 と奨学金	1	1.5	20	2	10%	佐藤FP 教養講座②
新そばで本格そば 打ち体験(午前)	1	2.0	4	4	100%	恒例
新そばで本格そば 打ち体験(午後)	1	2.0	4	4	100%	恒例
移動天文台が くるよ!	1	1.5	50	43	86%	2年目
新しい年収の 壁セミナー	1	1.5	20	8	40%	佐藤FP 教養講座③
世界に1つだけのミニ クリスマス ツリーを作ろう	1	2.0	12	9	75%	初
木の実のミニ リース作り	1	2.0	10	4	40%	百合が原緑のセンター協力
発酵ライフキムチ 作り講座(午前)	1	2.0	12	12	100%	恒例
発酵ライフキムチ 作り講座(午後)	1	2.0	12	11	92%	恒例
親子で挑戦! 手打ちうどん教室 (午前)	1	2.0	8	8	100%	恒例
親子で挑戦! 手打ちうどん教室 (午後)	1	2.0	8	8	100%	恒例
低学年 スキー教室	1	2.0	30	24	80%	恒例
合 計			462	329	71%	

・講座や教室は前年度のアンケート結果も踏まえ、老若男女が気軽に参加できる種目を計画した。一部講座の受講率が低調だったことで、全体としては仕様書の要求水準を下回る残念な結果となった。この結果を今後の講座開講に役立てたい。

・地区センター周辺には小中学校併せて4校在ることから、夏休みと冬休みに集中して講座を開講し好評を得ている。

・体験会からスタートした「ピックルボール」が公共施設では初のサークル結成となり注目された。競技人口の増加に貢献できたものと考え

A B C D

一部講座の受講率が71%に留まり要求水準(80%)を下回った課題はあるが、常に新たなことにチャレンジする姿勢で29講座を精力的に展開した。特筆すべきは、体験会を契機に公共施設初となる「ピックルボールサークル」の誕生へ直接導き、市民の持続的な活動を創出した功績である。小中学校連携や災害義援金寄付の継続も含め、一時的なイベント提供にとどまらず市民活動の創出に寄与したこの展開手法は、指定管理者の鑑(模範)とも言える極めて優れた成果である。

▽ 地域住民の交流等を目的とした事業に関する業務

▼ 定例事業

事業名	実施回数(回)		実施1回の
	参加者数(人)		平均参加者数(人)
ちびっこ広場	実施回数	12	15.8
	参加者数	190	
歌声サロン	実施回数	4	26.5
	参加者数	106	
ロビーコンサート	実施回数	5	26.2
	参加者数	131	
計	実施回数	21	20.3
	参加者数	427	

・定例事業は好評で目的である地域住民の交流の一助となっている。

・カレンダー販売会では寄付金全額を「石川県能登半島地震」及び「福島県東日本地震」の災害義援金として寄付しており、被災者支援に貢献している。

事業名	実施回数 (日数)	参加者数(人)
安全運転技能体験教室	1	12
たねダンゴ サポーター募集	1	28
第24回文化祭	2	285
移動天文台が来るよ！	1	43
苗穂・本町落語会	1	42
ほのぼのコンサート	1	115
被災地支援 カレンダー販売会	28	786
開館記念コンサート	1	129
計	36	1,440

無料開放事業	実施回数(回)		実施1回の
	利用者数(人)		平均参加者数(人)
親子の日	実施回数	24	6.7
	利用者数	160	
バドミントン	実施回数	7	10.6
	利用者数	74	
卓 球	実施回数	11	10.6
	利用者数	117	
自由の日	実施回数	9	5.6
	利用者数	50	
自習室の開放	実施回数	1,077	2.5
	利用者数	2,723	
計	実施回数	1,128	2.8
	利用者数	3,124	

・無料開放事業では自習室の開放が受験生や資格取得者から好評を得ている。

▽ 図書室業務

- ▼図書室利用者に対するアンケート調査を実施した結果、全体的な満足度でどちらかといえば満足と併せると93%が満足との評価を得た。
- ▼地域の身近な図書施設として、利用者のニーズに合わせた図書の選定、提供を通じ、生涯学習支援を積極的に行った。
- ▼近隣の小・中学校の見学、職業体験に対応し読書活動の促進を図った。

・地域の図書施設として、利用者からより愛され高評価を得られるよう努力していきたい。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等				・全室で利用件数や稼働率が前年実績を下回る結果となったが、一方で利用料金収入は前年度比24%の増収となった。これは利用料金改定による影響が大きいと思慮される。 ・全室とも令和7年7月からの利用料金改定による影響を受け、7月以降時間貸しが増加した。 ・取組の結果、問合せが増えるなど一定の成果があった。	A B C D 料金改定の影響により稼働率(55.3%)は前年比で微減したものの、仕様書目標(54%)を上回る実績を確保している。丁寧な受付対応や独自の案内による利用促進の取組も適切に行われており、要求水準を満たしている。	
			R6年度実績	R7年度計画			R7年度実績
	体育室	件数(件)	1,273	1,173			1,163
		人数(人)	23,251	21,879			24,067
		稼働率(%)	81.5	74.0			72.2
	集会室	件数(件)	1,233	809			1,197
		人数(人)	9,999	9,770			10,412
		稼働率(%)	53.1	55.0			52.0
	実習室	件数(件)	478	449			446
		人数(人)	3,322	2,650			3,140
稼働率(%)		42.0	41.0	39.3			
和 室	件数(件)	1,567	740	1,296			
	人数(人)	6,231	5,600	6,111			
	稼働率(%)	65.3	56.4	57.7			
計	件数(件)	4,551	3,171	4,102			
	人数(人)	42,803	39,899	43,730			
	稼働率(%)	60.5	56.6	55.3			
▽ 不承認 0件、取消し 3件、減免 0件、還付 0件							
▽ 利用促進の取組							
▼開講予定の講座については、センター入口正面に掲載するとともに、ミニチラシ(A5版)を配架し利用促進を図った。 ▼事業実施の際は、町内会に回覧依頼する等積極的に周知を行った。 ▼各サークルの会員増と活性化を図るため、活動内容等を館内掲示板で周知している。							
(6)付随業務	▽ 広報業務				・様々な媒体を活用した広報活動が、問合せや事業等の参加者増につながったものとする。	A B C D 定期的なだよりの発行に加え、ホームページやSNS等を活用した多角的な広報活動が適切に実施されている。ウェブアクセシビリティへの対応も含め、情報発信に関わる業務が誠実に履行されており、要求水準を適切に満たしている。	
	▼ホームページのほかSNS(facebook、instagram)でイベント情報や実施事業の模様を配信した。 ▼年2回「地区センターだより」を町内会の協力を得て町内回覧や個別配布を実施した。 ▼地域ミニコミ紙(ハッピータウン苗穂、ふりっぱー・さっぼろ10区)に地区センターの事業等について、関係記事の掲載(無料)を依頼している。 ▼1階通路に各サークルの紹介ポスターを掲示し、会員の募集案内を行っている。 ▼図書新刊本を図書室入口に案内掲示し、図書室利用者の利便性に配慮した。 ▼次年度のホームページ更新に向け、ウェブアクセシビリティの向上を考慮し検討を進めた。						

2 自主事業その他

▽ 自主事業

▼自動販売機売上事業

令和7年度 予算額151千円 決算額128千円 と23千円の減収となった。

▼カラオケ機器の有料貸出事業

令和7年度 予算額78千円 決算額38千円 と40千円の減収となった。

▼自主事業の収支については、本事業と明確に区分して経理処理している。

▼自動販売機は2台設置されているが、設置使用料、電気代等かかる経費は設置業者の負担となっており、地区センターからの支出はない。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

▼維持管理業務、物品購入、施設等の修繕は可能な限り札幌市内企業に発注している。

▼東区内の障がい者授産施設で製造するパンをロビーで出張販売している。

▼市内の企業等から不要のカレンダーの提供を受け、毎年カレンダー販売会を開催し、売上金全額を寄付した。(売上金329,716円-現金寄付1,096円含む)

・2024年 石川県能登半島地震災害義援金 164,858円

・2011年 福島県東日本大震災災害義援金 164,858円

・自動販売機の売上はマイボトル持参者の増加により減収となった。

・カラオケ機器使用料は貸室利用料の値上げに伴う利用件数の減少により減収となった。

・可能な限り市内業者に発注するとともに福祉施策にも配慮した取組みを実施した。

A B C D

自販機運営やカラオケ貸出等の自主事業を適切に管理している。障害者授産施設の出張販売受入れや、物品調達等での市内企業の積極活用など、福祉や市内経済への配慮も誠実に履行されており、仕様書の要求水準を満たしている。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法

▼講座・その他事業は、毎回事業終了時にアンケートを実施した。

▼図書室アンケート(1回/年)

・実施期間:令和7年12月1日～12月28日

・図書室利用者に調査用紙を配布し、投函箱で回収した。

▼利用者アンケート(1回/年)

・実施期間:令和8年2月27日～3月31日

・サークル利用者や一般利用者に調査用紙を配布し、投函箱で回収した。

結果概要

◇実施講座アンケート 【回答数 352名(参加者 388名)】

項目	評価	大変満足	満足	普通	不満
満足度		78% (275名)	19% (65名)	3% (11名)	0% (1名)
理解度		60% (211名)	30% (107名)	7% (24名)	3% (10名)
講 師		83% (290名)	14% (50名)	2% (8名)	1% (2名)
受講料		-	23% (69名)	76% (221名)	1% (2名)
職 員		72% (163名)	26% (59名)	2% (4名)	0% (0名)

◇図書室アンケート 【回答数 43名】

利用年代	30歳未満	9%(4名)
	30歳～50歳未満	33%(14名)
	50歳以上	58%(25名)
住 区	東 区	86%(37名)
	東区以外	14%(6名)
職 業	高校生以下・学生	5%(2名)
	会社員・公務員・パート	51%(22名)
	専業主婦(主夫)・無職	44%(19名)

・実施講座アンケートの結果は、講座内容に関する満足度97%、理解度90%でいずれも要求水準である80%を達成している。

・図書室アンケートの結果は、全体的な満足度が93%で要求水準である80%を達成している。

A B C D

講座満足度97%、図書満足度93%、接客態度86%、清掃状況83%と全項目で目標の80%を達成した。利用者の声に耳を傾け丁寧な対応や説明に努めており、サービスの維持向上が適切に図られ要求水準を満たしている。

評価項目	大変満足	満足	不満	わからない
本の種類・数	18% (8名)	40% (17名)	42% (18名)	0% (0名)
調査相談サービス	25% (11名)	40% (17名)	7% (3名)	28% (12名)
企画展示充実度	7% (3名)	35% (15名)	14% (6名)	44% (19名)
検索・予約システム	30% (13名)	28% (12名)	12% (5名)	30% (13名)
イベント充実度	12% (5名)	23% (10名)	12% (5名)	53% (23名)
図書館内設備	49% (21名)	44% (19名)	0% (0名)	7% (3名)
SNS等情報提供	18% (8名)	35% (15名)	7% (3名)	40% (17名)
職員対応	30% (13名)	63% (27名)	5% (2名)	2% (1名)
全体的な満足度	14% (6名)	79% (34名)	7% (3名)	0% (0名)

◇利用者アンケート 【回答数 188名】

年 代	小・中・高	10～30 歳代	40～60 歳代	70歳以上
	9% (16名)	3% (6名)	34% (64名)	54% (102名)

来館目的	貸室利用	サークル 活動	図書室 利用	その他
	9% (16名)	3% (6名)	34% (64名)	54% (102名)

利用程度	初めて	毎週・ 週2～3回	月1～3回	年に数回
	0% (0名)	63% (117名)	32% (61名)	5% (10名)

清潔さ	大変満足	満足	ふつう	不満
	32% (61名)	51% (96名)	17% (31名)	5% (10名)

接客態度	大変良い	良い	ふつう	悪い
	44% (84名)	42% (79名)	13% (24名)	1% (1名)

・利用者アンケートの結果は、接客態度(接客態度)の満足度が88%、清掃状況(清潔さ)の満足度が83%でいずれも要求水準である80%を達成している。

利用者からの意見・要望とその対応

要望：一般無料開放を増やしてほしい。

回答：有料利用者を優先した貸室状況を踏まえ、可能な限り実施している。

・いつもありがとうございます。きれいな施設です。これからもよろしく願います。など回答不要な意見等が多数ある。

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R7年度計画	R7年度決算	差(決算-計画)
収入	38,435	40,952	2,517
指定管理業務収入	38,206	40,784	2,578
指定管理費	30,693	31,804	1,111
利用料金	6,700	8,403	1,703
その他	813	577	▲ 236
自主事業収入	229	168	▲ 61
支出	41,574	43,835	2,261
指定管理業務支出	41,574	43,885	2,311
自主事業支出	0	8	8
収入-支出	▲ 3,139	▲ 2,883	256
自主事業による利益還元	100	20	▲ 80
法人税等	100	75	▲ 25
純利益	-3,339	▲ 2,978	361

【参考】	R7年度決算	内容
指定管理業務による利益還元	96	下記のとおり

▽ 説明

- ▼指定管理費は賃金スライド分・光熱水費高騰分灯として札幌市から補填があり、計画より2,578円の増となった。
- ▼利用料金は貸室料金値上げの影響で計画より1,703千円の増となった。
- ▼指定管理業務支出は修繕費、消耗品費の支出が増となり、計画より2,311千円の増となった。
- ▼自主事業による利益還元20千円は、熱中症対策としてホールで使用する工業用扇風機購入費として使用した額である。
- ▼指定管理業務による利益還元96千円は、事故防止対策として駐車場のラインが冬季間でも解りやすいように壁に蛍光色の反射板を貼付するため使用した額である。

・収入・支出ともに計画より増額となり収支決算は▲2,978千円で繰越金から補填した。支出の増は安全・安心な施設を提供するための修繕費や職員のPC購入費等必要不可欠なものである。今後は可能な限り支出の減額に努めることはもとより、安定した利用料金収入を確保するため、新規サークル誕生につながる講座等の実施を図っていきたい。

A B C D
施設の修繕や備品購入等の不可欠な支出により約300万円の赤字決算となったが、当初の赤字計画より損失を圧縮し、繰越金による補填で財務の健全性は維持されている。利用料金収入は料金改定に伴い計画を上回る増収となった。工業用扇風機や駐車場反射板の整備などによる利用者・安全還元も適切に実施されており、効率的な予算執行に努めていることから要求水準を満たしている。

< 確認項目 > ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▲当団体の財務状況は、指定管理者制度導入時より毎年微増で経過していたが、令和6年度は約40万円、令和7年度は約300万円の赤字となった。令和7年度については、経年劣化に伴う施設の修繕箇所の増と職員用PCと展示用パネル購入が赤字の要因で、いずれも業務上必要不可欠なものである。なお、赤字分は繰越金から補填している。

・施設内の各所で老朽化進んでおり、計画的な修繕が必要である。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手の契約は一切行っていない。

適 不適

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】

総合評価	次年度以降の重点取組事項
・令和7年度の業務に係る①業務の要求水準達成度②自主事業その他③利用者の満足度④収支状況、これら各項目の成果を勘案すると要求水準は満たしているものとする。	・安定した貸室利用料金を確保するため、既存サークルの支援と新規サークルの誕生につながるような講座を実施して利用者増を目指す。 ・赤字収支を削減するため、可能な限り各科目の支出抑制を図る。 ・施設(備品等を含む)の老朽化を考慮した計画的な修繕

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
全体として仕様書の要求水準を全方位で満たすとともに、多くの項目でそれを大きく上回る極めて優れた管理運営が実践されている。機械警備の突然の契約解除という防犯上の危機に対し、迅速な新規契約と賠償金請求により隙のない統括管理能力を実証した。また、最低賃金改定への速やかな時給引き上げや駐車場への蛍光反射板設置など、安全で健全な雇用・施設環境が確立されている。特筆すべきは、近隣小中学校との連携や災害被災地への義援金寄付を継続しつつ、体験会から「ピックルボールサークル」の誕生へ直接導き、市民の持続的な活動を創出した功績である。この地域コミュニティ創出を促す展開手法は指定管理者の模範となるものであり、最高レベルの模範的な運営と高く評価する	常に新たなことに挑戦し、素晴らしい講座を試行錯誤しながら多数実施しているためやむを得ない部分もあるが、受講率が71%と要求水準(80%以上)を下回ったことから、今後はさらなる受講率向上の余地がある。 また、今期は必要な施設修繕や備品購入等により約300万円の赤字決算となった。過去の繰越金での補填により財務の健全性は保たれているものの、中長期的な視点に立った計画的な予算管理やより一層の経費節減の取組を進め、より健全な施設運営に向けて改めて黒字運営を目指されたい。